

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

C. 教員の教育・研究指導能力の向上のための方策

①FD体制の整備充実

《理工農系》

●九州大学人間環境学府都市共生デザイン専攻

「アジア都市問題を解くハビタット工学教育」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本プログラムを実施した2専攻だけでなく他専攻も含めた本学府全体の教育FDを年度末に実施し、各年度の成果と課題について教員間の共有を図ってきたが、すべての教員がプログラムの主旨を理解し、相応の教育分担をしたとは言えない。結果的に一部の教員に負担が集中する面も見られた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

関係教員の意味統一不足が大きな原因と考える。教育FDの方法を大きく見直す必要があった。参加学生からは本プログラムに対して非常に高い評価を得たが、個別の教員による研究室学生への指導・発言にばらつきが生じ、必ずしも関係分野の学生がバランスよく本プログラムに参加したとは言い切れない。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

関係教員の意味統一を向上させるため、両専攻のもとで運営WGを組織・定期開催し、運営WGで議論した学生評価に基づく実施内容の改善・工夫を両専攻会議で承認しながらプログラムを改善実施していく体制を整えたが、根本的な解決には至らなかった。本プログラムの取組み内容を当初から既存コースのコア授業科目群として正規に位置づけることができたら、関係教員の意味統一は比較的容易だったかと思われる。なお、本件については、本プログラムの恒常的な実施のために本対応への協議を重ね、改善に向けた取組みを続けている。